

SDGs 学習の つくりかた

開発教育実践ハンドブックⅡ

実践事例編

高等学校での SDGs 学習

田中治彦

(上智大学名誉教授／開発教育協会理事)

1. 高等学校における SDGs 学習

高校における SDGs 学習が本格的に始まるのは 2022 (令和 4) 年度に高校に導入される新しい学習指導要領からであると思われる。しかしながら、これまでも開発教育、国際理解教育、環境教育などに関心をもつ教員や学校により SDGs につながる内容が教えられてきた。特に「国連 E S D の 10 年 (2005-14)」の期間とその後にさまざまな E S D (持続可能な開発のための教育) の実践が試みられた。ここでは、東京都立農芸高校における「国際農業」、茨城県立水戸第二高校における「環境科学」、そして私立大妻中野中学高校における「グローバルイシュースタディ」の 3 つの事例を紹介しよう。

2. 東京都立農芸高校の「国際農業」

東京都立農芸高校は 1900 (明治 33) 年に創立された東京都で最も歴史がある農業高校である。同校は農業の専門高校として 21 世紀の産業社会で活躍する人材の育成を目指し、「環境教育実践宣言校」をスローガンにあらゆる場面で「環境教育」を推進している。全日制課程には園芸科学科、食品科学科、緑地環境科が設置されている。各学科では、国語、科学、体育などの普通教科と、農業と環境、農業情報処理、総合実習などの専門教科が教えられていて、その比率はおおむね 2 : 1 である。

同校では 2016 年度から学校設定科目として「国際農業」を立ち上げた。国際農業を企画した中園真由美教諭 (英語科、開発教育協会会員) によれば、本科目設置のきっかけは生徒たちが学んできた農業の知識を開発教育の視点を通して学び直してみてもどうかと考えたことである。私たちの世界を学歴や金銭とは違う目線で見ると、新たな発見や生き方が見えてくるかもしれない。また、日本の優れた農業技術が世界の人々の役に立っていることを生徒たちが知れば自分たちの学びを誇りに思うことができるだろう、と考えた。

国際農業設立の 2 年目に当たる 2017 年度のカリキュラムは表 1 のとおりである。「世界の食卓」「パームオイル」「100 人村」など開発教育協会がこれまで制作してきた人気教材が使用されている。そして、渋谷のビル街から都市の緑地化を計画する人、50 年にわたり地域に根付いた有機農産物の八百屋を営む人、国内外で農業活動をする東京大学の学生など様々な立場の方々から農業に対する思いを聞いている。

表 1 2017 年度「国際農業」のカリキュラム

授業日	内容	目的	注意点
4/18 (火)	オリエンテーション NASA 月で遭難したら	自分の知識の偏りに気付く 協力、話し合いの大切さを知る	一年間の授業の計画を的確に伝える 雰囲気作り
4/25 (火)	「渋谷の農家」を読む	5月30日 weekend farmers 訪問の準備	

		備	
5/9 (火)	マシュマロチャレンジ 農業中心ウェブイング 自分中心ウェブイング	創意・工夫の大切さ、協働の大切さ、面白さに気付く 自分の農に関する知識を再確認する 自分の周りの人や事柄などを振り返り、つながりを認識する	活動しやすい雰囲気作り しっかり振り返りを行う
5/16 (火)	世界の食卓	食や生活の多様性を知る	フォトランゲージの手法で学ぶ文化の多様性
5/30 (火)	weekend farmers 訪問	東京の農業について考える	渋谷のビル街の屋上の畑訪問
6/6 (火)	weekend farmers 訪問振り返り 長本商会について	東京の農業について考える	訪問の目的と成果を意識させる
6/13 (火)	長本兄弟商会訪問	東京の農業について考える	しっかりと話を聞く 有機野菜を通じた様々な取組について学ぶ
6/20 (火)	パームオイル	DVDを見ながら、環境問題について学習する	自分たちの生活との関わりを通して世界の環境について考える
6/27 (火)	課題図書紹介 国選び 1学期の振り返り	夏休みに向けて課題図書、自分の調べる国を決める	図書館で主体的に考えて決める
9/5 (火)	オリエンテーション SDGs 持続可能な開発目標	二学期の計画 国連の SDGs について、その取組を学ぶ	二学期の計画についての的確に伝える SDGs について、映像などを使用しながら分かりやすく説明する
9/12 (火)	JICA 地球ひろば見学 世界の現状と国際援助について	元農業隊員の方のお話し SDGs についての展示を見学	世界で活躍する日本の農業
9/19 (火)	JICA 振り返り 100 人村ワークショップ	SDGs について復習 「世界がもし 100 人の村だったら」のエッセイをみんなで読む	学んだ内容を身に付ける 「世界の中の私」の視点をもつ
9/26 (火)	SDGs 持続可能な開発目標 グローバルフェスタ説明・準備	場所、交通路確認 課題配布	しっかり準備して有効な 1 日にする
9/30 (土)	グローバルフェスタ 2017	お台場にて開催	たくさんの人との出会いを楽しむ
10/3 (火)	グローバルフェスタ振り返り	出会った人、経験したことについて分かち合う	プレゼンテーションの要領で
10/10 (火)	海城高校関口伸一先生講義 「地球環境の今」	生態系多様性の重要性 生態系に与える農業の影響 里山活動	里山の生態系の多様性をワークショップで学ぶ
10/24 (火)	マイクロプラスチックについて	海の環境問題と私たちの生活の関わり	環境問題を身近に感じさせるように
10/31 (火)	文化祭展示作成	夏休みの課題を基に分かりやすく見やすく工夫する	
11/7 (火)	文化祭展示 仕上げ	レポートなども一冊に綴じ込み展示する	
11/21 (火)	30 歳の私	将来の自分を想像しながら今の自分を振り返る	生きていく上で大切にしたいものを考えさせる
11/28 (火)	国際農林水産業研究センター広報室長の方の講義 「日本の農業と国際協力」	世界で活躍する日本の農業について学ぶ	日本の農業の活躍を知る
1/16 (火)	田中一輝さん特別講義	大学生の見た日本の農業・世界の農業	国内外での援農体験について
1/23 (火)	振り返りシート記入	1 年間の学びを振り返る ウェビング	学びを通して変容をみる
1/30 (火)	一年間の振り返り・感想発表 いいところ探し	反省会 感想発表	発言しやすいなごやかな雰囲気作り

中園教諭が本科目で大切にしていることは3つある。ひとつは「生徒それぞれの居場所となるような授業づくり」である。参加型学習では意見や考えをどれだけ自由に発想し、それを忌憚なく出せるかが鍵となる。そのために、毎時間のアイスブレイクと一年間の初めの仲間作りのアイスブレイクは特に丁寧に行っている。人の意見はしっかりと聞き、否定しないこと、発表後は拍手することなど心掛けている。第二は「多様な視点を提示すること」である。世界の食糧事情や食文化、児童労働の問題、教育の不均衡、世界で起きている環境問題などを学びながら自分の置かれている立場、日本の世界における立場を理解できるようにする。そのため、できる限り様々な講師による多様な視点からの意見を提示するようにしている。最後に、「ふりかえりをしっかり行うこと」である。毎回の授業内容のふりかえりを行なうだけでなく、同校での三年間の学びの振り返りや自分自身の振り返りを大切にしている。自分の学んできた農業が世界の人々の役に立っていること、産業の中でも根幹をなす大切な分野に携わっていることを自覚して自信をもってもらいたいという願いがある。

以下、生徒たちから出てきた感想である。「これからは少し意識して買い物をする」「農業に対してより深く考えるようになった」「人の役に立てる生き方や職業に就きたいと思う」「世界の人々が互いを理解し合い共存していくことは大変そうだった」「一日一日後悔しない生き方をしたい」「地産地消が大切」「物事には良いことも悪いこともあるのだと思った」「考え方が違う人がたくさんいて面白かった」「自分も評論するだけでなく行動すべきだと思った」。

教科横断型の授業が提唱されているが農業高校での学びこそ、このホリスティックな教育がふさわしいであろう。今後の課題としては、それぞれの専門科目で学んでいる内容を調査しつつ、それを補完したり共鳴したりできるような授業内容にしていくことである。

3. 茨城県立水戸第二高等学校の「環境科学」

水戸第二高校は1900(明治33)年に茨城県高等女学校として創設された公立高校である。同校はスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けて、理数教育に力を入れてきた。また、グローバルな社会で活躍する人材の育成を目指している。

学校設定科目である「環境科学」は環境問題を中心に学習し、併せて基礎的な情報処理の技術の習得をねらいとする科目である。この科目は環境をテーマに教科を超えた共通領域を研究する学問であり、基本的には環境全般に対する深く広い理解と、環境問題の解決手段の研究を目的としている。学習内容は以下の5点である。

- (1)地球環境問題の現状－地球環境の現状、現代社会と環境倫理、自然と人間の調和
- (2)環境保全対策－3R対策、自然環境の保全、環境科学実験
- (3)高度情報化社会及び情報処理演習－ワード・エクセル演習、統計処理とグラフ化及び分析
- (4)SDGsの理念－持続可能な世界、探究活動「私の行動宣言」
- (5)探究活動「プレゼンテーション演習」－環境問題に関する小論文作成、パワーポイントによるスライド作成、環境問題についてのプレゼンテーション

年間の授業計画は表2のとおりである。4月から6月は、環境科学に関する学習及び問題解決力トレーニングが行なわれる。課題解決力トレーニングとは、「環境問題」のテーマについて、答えがないか、いくつかの答えがあるものについて、班ごとに協議してアイデアや解決策を提案する授業である。7～9月には、ワード・エクセルなどの使用法と情報モラルを学ぶ情報演習が行なわれる。そして、探究活動

	7	3 探究活動演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境エネルギーセミナー」現代のエネルギー問題 ・SDGsの理念 ・探究活動「私たちが調べた環境問題」SDGsからのテーマ選択 ・前期テスト 	原研職員によるクラス別討議「エネルギーセミナー」 図書館での資料収集	<ul style="list-style-type: none"> ・環境白書 ・原子力ハンドブック ・SDGsガイドブック 	生物(環境ホルモン・生物多様性・生態系) 現代社会(循環型社会の形成)
	8	環境調査	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査(酸性雨) 		<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・環境家計簿 	
	9	3 探究活動演習	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に発表用原稿作成 ・チェックリストの提出 ・身近な環境問題及び演習 	図書館での資料収集 文献検索	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・SDGs資料 	
後 期	10	探究活動演習 環境発表会 (10/11)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション用スライド作成 ・「水戸二高環境科学フォーラム2020」の開催 県内小・中・高生による発表会 ・身近な環境問題及び演習 	図書館での資料収集 文献検索	<ul style="list-style-type: none"> ・スクラップブック ・パソコン資料 	国語(言語感覚・情報の活用と表現)
	11	探究活動演習	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド作成(環境問題について原稿作成) ・班別プレゼンテーション原稿チェック 	図書館・インターネットの利用 文献検索	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・パワーポイント 	情報(プレゼンテーションの仕方)
	12	4 プレゼンテーション演習	<ul style="list-style-type: none"> ・班別の個人プレゼンテーション(副担任指導) 	図書館・インターネットの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・パワーポイント 	
	1	プレゼンテーション演習	<ul style="list-style-type: none"> ・班代表プレゼンテーション(クラス代表選出) 	図書館での資料収集 インターネットの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・パワーポイント 	
	2	5 探究活動プレゼンテーション(個別)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期末テスト・レポート提出 ・SSH研究成果報告会で発表 ・身近な環境問題及び演習 		<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン資料 ・パワーポイント 	
	3	6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションまとめ 作成ファイル提出 			

2020年2月に行なわれた研究成果報告会での発表内容を見てみよう。2組代表による発表のテーマは「海洋プラスチックごみ問題を身近に考えるために」である。世界の海洋プラスチックゴミの現状分析があった後、地元の大洗海岸のゴミについての調査結果が示される。そのゴミをもたらしめているのが那須を源流とし栃木県、茨城県に広く流域を持つ那珂川であることが報告される。今後プラスチックゴミ

を減らすために、「絶対に使いたくないレジ袋デザイン・コンテスト」というユニークな提案がなされている。これは持っているだけで辛くて罪悪感を感じるような絵や字がかかれたデザインのレジ袋のデザイン・コンテストである。

7組代表によるプレゼンのテーマは「SDGs 12 Responsible Consumption and Production つくる責任つかう責任」である。この発表は英語で行なわれた。食品ロスの実態や原因の分析が示されたのちに、今後の改善の方策が提案される。「What we can do」として示されたのは、「Check inside the refrigerator before shopping (買い物に行く前に冷蔵庫の中を調べよう)」「Don't buy too much, even if it's cheap (たとえ安くても買すぎないようにしよう)」「Make only what we can eat (自分で食べられる量だけ調理しよう)」「Choose stores that tackle food waste problems (食品ロス問題に取り組んでいるお店を選ぼう)」などである。

1組の代表のテーマは「私たちにできる紛争支援」である。このテーマを選んだ動機は、修学旅行で行った沖縄で知った戦争の実態である。世界の紛争の現状を報告した後に、最も被害にあっている女性と子どもに焦点を当てている。そして、紛争解決のために自分たちができることを考える内容となっている。この授業で評価できることは「環境科学」という科目でありながら、戦争の問題に行き着いていることである。この科目の展開に当っては、他の教科との関連性が強調されている。SDGsについて生徒も、指導する教師の側もその本質が十分に理解されていることがよく見える授業展開である。

4. 私立大妻中野高校における「グローバルイシュースタディ」

大妻中野中学校・高等学校は1941年(昭和16年)創設の中高一貫の女子校である。学校のモットーは「学芸を修めて人類のために Arts for Humankind」である。同校は、スーパグローバルハイスクールのアソシエイト校として認定されていて、グローバル人材の養成に力を入れている。複数外国語の学習や、タイ国チェンマイ市の高校との交流などいくつかの国際プログラムがあるが、ここではSDGsにつながる学習として高校で実施されている「グローバルイシュースタディーズ」を取り上げる。

中学1年次よりグローバルリーダーズクラスが設置され、他コース(アドバンストクラス)よりも協働の学びや表現方法についてより深く学んだ上で高校では、学校設置科目としてグローバルイシュースタディーズ(以下GIS)を、高校1年次に週2時間、2年次に週2時間、3年次に週1時間設定した。なお、2019年度からは、理系コースにもGISを設定している。毎週土曜日の3・4時間目に行い、2人の担当教諭で2クラスを1時間ずつ、「GIS」と「プレゼンテーションスキルアップ講座」に分けて実施した。GISでつけたい力は、高校1年次は「地球的課題を知る」、「学びの軸をつくる」そして「発信のしかたを学ぶ」、高校2年次は「自分の意見を形成し議論する」、「発信する」、「アクションを起こす」、高校3年次は「社会との関わりかたについての「ビジョン」を形成する、「最善解」を考える」としている。このGISの学びは、「自律」、「協働」、「貢献」の要素を探究的に学び続けていけるようになることにも重点を置いている。

GISの年間の授業内容は表3のとおりである。「貧困」「貿易」「ジェンダー」「食」といったSDGsにつながるテーマが採用されていて、開発教育協会がこれまで制作した教材が使用されている。またグローバルに活躍している外部講師による特別授業も行なわれていて、生徒たちの視野を広げることが目指されている。

表3 2018年度「グローバルイシュースタディーズ」の授業内容

	グローバルイシュースタディーズ	プレゼンテーション・スキルアップ講座
4. 14	卒業生を招いての質疑応答〔学びのモチベーションづくり〕	
4. 21	こどもたちの寝るところ①	自分史プレゼン、なぜ大学に行く？
4. 28	こどもたちの寝るところ②	Will-Can-Must シート
5. 19	こどもたちの寝るところ③ (プレゼンテーション)	笑顔美人塾セミナー (笑顔美人塾北野美穂子氏、外部講師)
6. 2	「貧困」ブレインストーミング	議論のしかたと合意形成 SDGs を使った「学びの軸」づくり
6. 9	相対的「貧困」と絶対的「貧困」	東大の奇問を解いてみよう
6. 16	「貧困」を考えるワークショップ (まとめとマザーハウスに向けて)	トビタテ！留学 JAPAN 報告 (本校トビタテ留学生2名)
6. 23	マザーハウス講演(外部講師) 途上国から世界に通用するブランドを	
6. 30	青年海外協力隊での活動報告(本校教員)	世界史風刺画を読み解く
9. 1	L.A.からの Global Career Seminar (Mr. Shafik Tayara, Social Innovator from L.A.)	
9. 8	SDGs グループに分かれて課題発見と解決へのアプローチ、その発表	
9. 15	シンガポールからの Global Career Seminar (戸田真美子氏)	
9. 29	開発教育ロールプレイ①	「自分の実現したい社会」を考えよう 〔「学びの軸」にもとづいて〕
10. 6	開発教育ロールプレイ②	「自分の実現したい社会」を エレベーターピッチで発表しよう
10. 13	開発教育ディスカッション①	現代の課題から「仮説」を立てる①
10. 20	開発教育ディスカッション②	現代の課題から「仮説」を立てる②
10. 27	貿易ゲーム(5, 6組合同) 「世界の不平等を体験・体感する」	
11. 10	ジェンダーを考える①	世界史風刺画を読み解く
11. 24	ジェンダーを考える②	小論文の型(フォーム)
12. 1	ジェンダーを考える③	世界史の中での「グローバル」化
1. 12	世界の「食」を考える①	「学びの軸」ポスターセッションに向けて①
1. 19	世界の「食」を考える②	「学びの軸」ポスターセッションに向けて②
1. 26	世界の「食」を考える③	「学びの軸」ポスターセッションに向けて③
2. 9	タイ料理調理実習(タイ料理研究家遠藤美香氏、本校卒業生、外部講師)	
2. 16	「学びの軸」ポスターセッション直前準備、最終打ち合わせ、リハーサル	
2. 23	「学びの軸」ポスターセッション本番	
3. 2	1年間の学びの振り返り	ポスターセッション講評と今後に向けて

GIS のみならず大妻中野高校の教育で重視されているのが「学びの軸」づくりである。GIS ではまず「自分が何のために高校に来て何のために学び、どのような社会を実現したくてどのような貢献ができるのか」ということを生徒に考えてもらう。これが「学びの軸」であり、それによって学校で受ける各教科の授業が、自分の学びたいことを学び続ける素材集めの場となる。表3にあるように「学びの軸」づくりは年間を通して追究されていて、年度の最後に「学びの軸ポスターセッション」という発表の場が設けられている。また、外部のポスターセッション等にも積極的に参加し、学びの発信と多様な価値観の受容の場を多く設けている。公立の高校では2022年度から『探究』の時間が新設されるが、大妻中野の「学びの軸」づくりの実践は大いに参考になるであろう。

[同校の実践の全体像については、牛込裕樹「大妻中野中学校・高等学校のスーパーグローバルハイスクール事業」田中治彦他編（2019）『SDGsカリキュラムの創造』（学文社）を参照のこと]

タイトル 「SDGs 学習のつくりかた 実践事例編 高等学校での SDGs 学習」

URL : <http://www.dear.or.jp/event/6950/>

発行日 2021年5月18日

企画 SDGs と開発教育研究会

執筆 田中治彦（上智大学名誉教授／開発教育協会理事）

発行 NPO 法人開発教育協会（DEAR）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41 富坂キリスト教センター2号館3階

Tel : 03-5844-3630 Fax : 03-3818-5940

E-mail : main@dear.or.jp URL : <http://www.dear.or.jp/>



本編の著作権は（特活）開発教育協会に所属します。著作権法上の例外を除いて、教材の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。